

## 第3章 参加者アンケート調査

### 1 調査の目的

昨年度は、この「美ら海づくりツアー」「ふれあいの森づくりツアー」が2カ年に渡って実施される初年度だったこともあり、個々のプログラムにおける満足度調査および改善提案の抽出に重点を置いたアンケート調査を実施した。これに対して今年度は、満足度調査の割合を減少させ、現実的な価格設定や情報収集のあり方・希望する体験メニューといった、意識調査の意味合いを強くさせるアンケートに変化させた。

これにより、以下の2点を本アンケート調査の目的とした。

座間味村におけるこれからの観光のメニュー作りのヒントとする

座間味村におけるこれからの観光戦略（マーケティング・広報活動）のヒントとする

### 2 調査の方法

昨年度は、「ツアー初日に配布しツアー終了時に回収、その時点で記入が終わっていない参加者は後日 FAX もしくは郵送による回収」という方法を採用したが、回収率は74.1%に留まった。これは、ツアー終了時に記入が完了していなかった参加者の多くが、後日 FAX もしくは郵送にて送るという行動に至らなかったためと推測される。

従って今年度は、「ツアー初日に配布しツアー終了時に回収、2日目の解散式直前に20～30分程度のアンケート記入の時間を設け、余裕を持って記入してもらう」方式を原則とした。

これにより、今年度のアンケート回収率は以下の数字を達成した。

総参加者数：158名

アンケート対象者：150名（乳幼児8名は非対象）

回答数：148名

回収率：98.7%

### 3 調査の結果

人数の記載がない項目は回答者が 1 名のもの

#### ツアーを知ったきっかけ

メールマガジン -----2 名

・ホールアース自然学校（2 名）

座間味村ホームページ -----29 名

その他インターネットホームページ（どのホームページですか？） -----15 名

- ・mixi（7 名）                      ・ホールアース自然学校
- ・RIK（2 名）                      ・がじゅまる自然学校
- ・美ら島物語                      ・うみまーる

チラシ -----21 名

- ・とまりん（7 名）                      ・職場（2 名）
- ・離島フェア（2 名）                      ・図書館
- ・モンベルクラブ南大沢店（2 名）                      ・NEOS（アウトドアショップ）
- ・石嶺社会福祉センター（2 名）                      ・フェリー座間味
- ・がじゅまる自然学校（2 名）                      ・NPO 出会い市

雑誌 -----5 名

・沖縄 2007（観光ガイドブック）（1 名）

新聞 -----9 名

- ・沖縄タイムス（4 名）                      ・レキオ（3 名）
- ・琉球新報（3 名）                      ・岳南朝日（静岡県の新聞）

ラジオ -----2 名

- ・朝の番組
- ・NHK

テレビ -----0 名

友人・知人 -----60 名

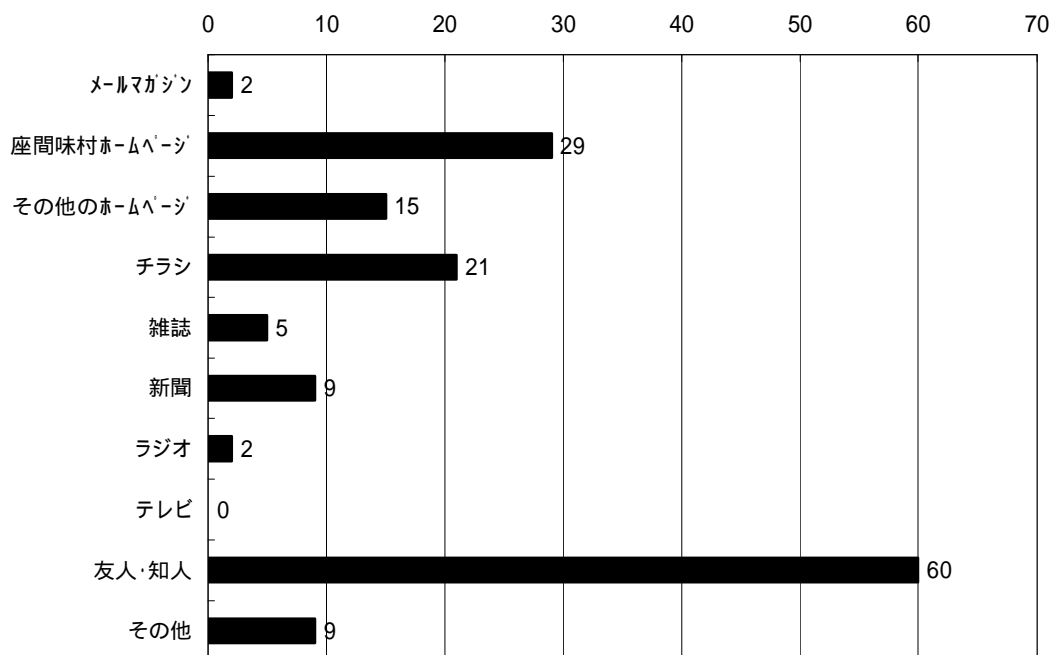
<その友人・知人はどうやってツアーを知ったか？>

- ・ N P O 沖縄ホールアース研究所（16 名）
- ・ うみまーるホームページ
- ・ がじゅまる自然学校（6 名）
- ・ ラジオ
- ・ 友人から（5 名）
- ・ メーリングリスト
- ・ ホームページ（5 名）
- ・ mixi
- ・ 新聞（3 名）
- ・ 雑誌
- ・ 昨年度の参加者（2 名）
- ・ アウトドアサークル
- ・ ホールアース自然学校
- ・ カフェ

その他（具体的にお書き下さい） -----9 名

- ・ JICA 沖縄国際センター（5 名）
- ・ アウトドアサークルの掲示板
- ・ 昨年度も参加

『ツアーを知ったきっかけ』グラフ



ツアーに参加しようと思った動機（3つまで選択可）

座間味が好きだから -----30 名  
座間味に行ってみたくて思っていたから -----71 名  
料金が安いから -----68 名  
日程的に都合がよかったから -----37 名  
ツアーの趣旨に賛同するから -----82 名  
体験内容に魅力を感じたから（どの体験に魅力を感じましたか？） -----76 名

美ら海づくりツアー

- ・シーカヤック（16名）
- ・サンゴの保全活動（15名）
- ・ビーチクリーン（12名）
- ・ヨット（3名）

ふれあいの森づくりツアー

- ・シークワサーの植樹（10名）
- ・陶芸体験（10名）
- ・染め物体験（6名）

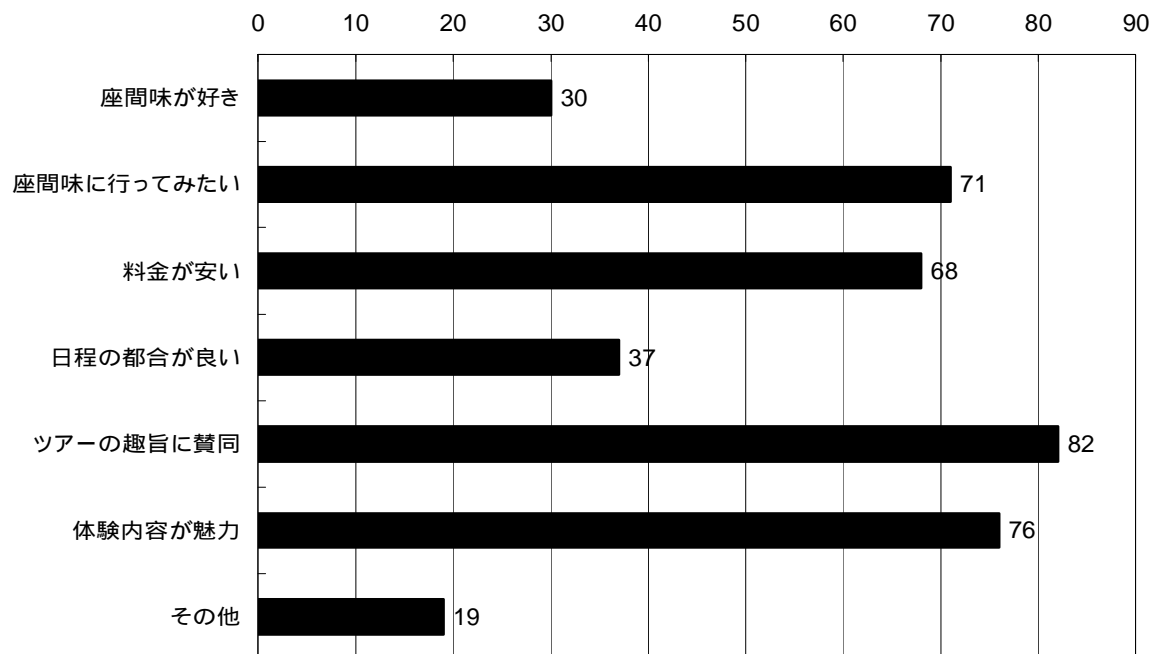
両ツアー共通

- ・夜の交流会（11名）
- ・内容すべて（5名）
- ・島人との交流（4名）
- ・郷土料理（4名）
- ・子どもが参加可能

その他（具体的にお書きください） -----19 名

- ・以前のツアーに参加して満足したので（4名）
- ・自分たちで潜る海は自分たちで守りたかった
- ・美しい海に癒されたかった
- ・座間味の皆さんに会いたかった
- ・親子で参加できる内容だった
- ・ボランティア活動だけでなく楽しむ活動もたくさんあった
- ・NPO沖縄ホールアース研究所に関心があった
- ・友人／知人に誘われた（2名）
- ・離島に行ってみたかった
- ・沖縄と聞いてだけで飛んできた
- ・島の時間に興味があった
- ・ピンとくるものがあった
- ・事務局の田中に会いたかった
- ・日本人の友人が欲しかった
- ・クジラの見られる時期だった

『ツアー参加動機』グラフ

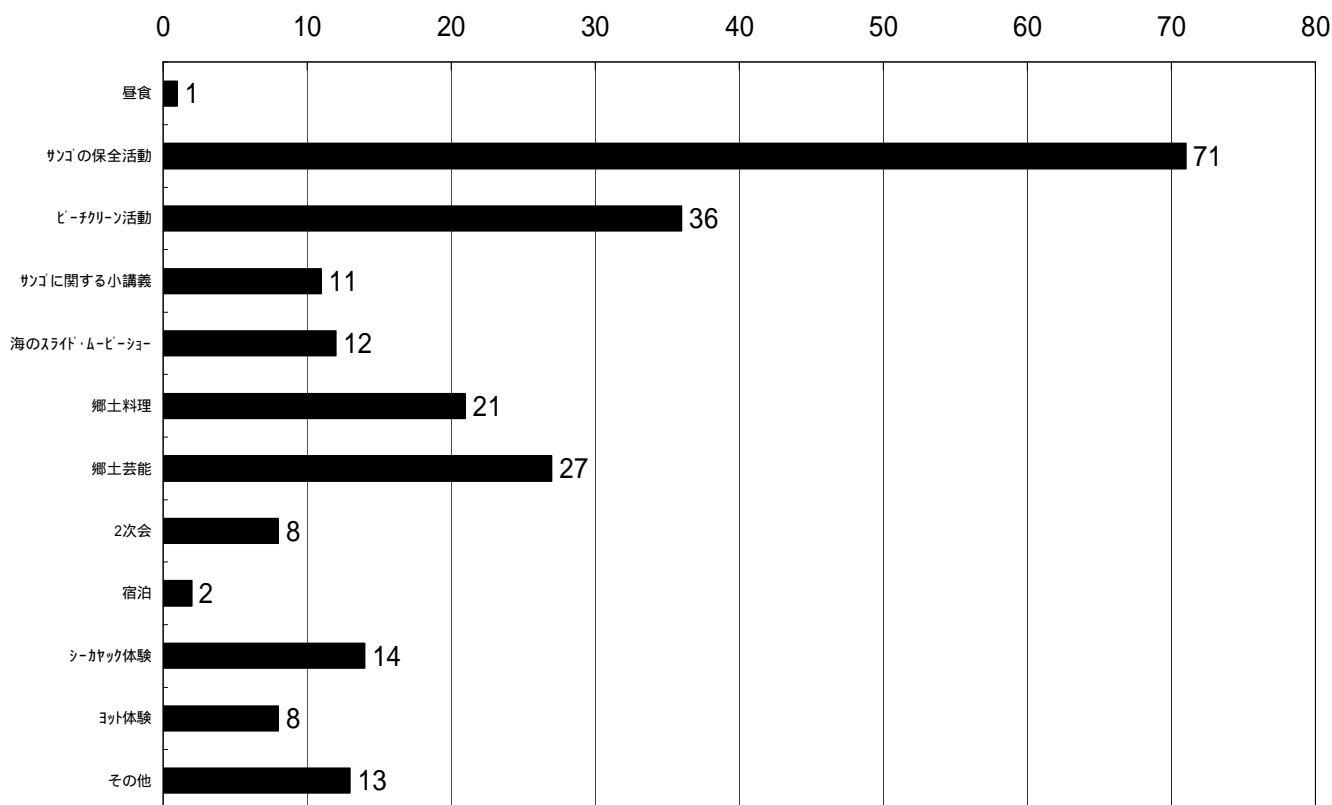


特に印象に残ったプログラム（2つまで選択可）

美ら海づくりツアー

昼食	-----	1名
サンゴの保全活動	-----	71名
ビーチクリーン活動	-----	36名
サンゴに関する小講義（2回実施）	-----	11名
海のスライド・ムービーショー（1回実施）	-----	12名
郷土料理（夕食）	-----	21名
郷土芸能（交流会）	-----	27名
2次会	-----	8名
宿泊	-----	2名
シーカヤック体験（1回実施）	-----	14名
ヨット体験（2回実施）	-----	8名
その他	-----	13名

『特に印象に残ったプログラム・美ら海づくりツアー』グラフ



## 主な理由

### サングの保全活動

- ・座間味の皆さんの苦労や努力を知ることができたから（7名）
- ・シロレイシガイダマシによる被害を初めて知ることができたから（6名）
- ・座間味の海を守るために少しでも貢献できたから（6名）
- ・自分は何ができるのだろうと考えるきっかけになったから（6名）
- ・サングの病気（ホワイトシンドローム）のことを初めて知ることができたから（5名）
- ・普段のファンダイビングではできない体験だったから（3名）
- ・座間味の海の美しさは、今まで見てきた慶良間の中でも格別だったから（3名）
- ・サングが想像よりも硬かったことを実感できたから（2名）
- ・今まで見るだけだったサングを（病変部の駆除のために）砕くという貴重な体験ができたから（2名）
- ・座間味の海に感動したから（2名）
- ・ガイドの方が親切丁寧だったから（2名）
- ・自分でもできる身近な自然保全活動として、県外の方を含めたくさんの方が参加していたから
- ・海の生き物の多様性を実感したから
- ・今まで以上にサングに親しみが湧いたから

### ビーチクリーン活動

- ・自分の行動を見直すきっかけになったから（5名）
- ・ビーチが少しきれいになって気持ちよかったから（4名）
- ・クジラやウミガメなど、ゴミが生き物に与える影響について知ることができたから（3名）
- ・地元の方と一緒に活動できたから（2名）
- ・クラフト作りが形に残る思い出になるから（2名）
- ・クラフト作りが楽しかったから（2名）
- ・プラスチック製品など人工的に作られたものがゴミとなって多く捨てられていることに驚いたから
- ・グループの分け方がユニークで知らない方とも自然に交流できたから
- ・地元の方によるメンテナンスが行き届いている様子で感心したから
- ・漂着ゴミについて詳しく教えてもらえたから
- ・指導の方の「たった3つのゴミでもこれだけの人数で拾えば100個」という言葉に、小さなことでもみんなで行動すれば大きなことになることを実感したから
- ・クリーン活動をやろうという人たちが集まっていることを嬉しく思ったから
- ・ゴミがたくさんあるという現実を知ることができたから
- ・ウミガメが産卵で使う貴重な場所をきれいにできたことに意義を感じたから
- ・環境や生物、地理など様々なことを考えるきっかけになったから
- ・自然がとても近く感じられたから
- ・自然は楽しむだけでなく我々が守っていくものであることを、子どもたちにも身をもって体験させることができたから
- ・こういう機会がないとなかなか実践できないから

### サンゴに関する小講義（2回実施）

- ・今まで知らなかったサンゴの生態を知ることができたから（3名）
- ・今までより深くサンゴのことを知ることができたから（2名）
- ・子どもでも分かりやすくまとめてあったから
- ・基本的な知識に加えて、「共生」という最後のメッセージが印象に残ったから
- ・サンゴを守らなければいけない理由がよく分かったから
- ・ダイビングや展示で一方的な意志を受けるのではなく、こちらからも働きかけることの重要性を痛感したから
- ・「気付いていないことの怖さ」を感じたから

### 海のライド / ムービーショー（1 回実施）

- ・画像や映像がとても美しくメッセージが伝わってきたから（4 名）
- ・ダイビングをしたいという気持ちになったから（2 名）
- ・うみまーるの 2 人の表情が海や生き物に対する愛情に溢れていたから
- ・近くに素晴らしい自然がありながら知らなかった自分が恥ずかしく、もっと自然に出てふれあうことが必要だと感じたから
- ・元々山の人間なので、純粋に海の中はすごいなと思ったから
- ・写真 1 枚に秘められた苦勞を感じたから
- ・自然に優しい心遣いをされている姿勢に感動したから
- ・海の中の様子、生物の多様性、生物の姿というものは一般の人の目に触れる機会が少ないので、このような活動にはとても大きな意味があると感じたから

### シーカヤック体験（1 回実施）

- ・美しく青い海に感動したから（9 名）
- ・初めてシーカヤックを体験できたから（3 名）
- ・天気にも恵まれ最高のコンディションだったから（3 名）
- ・海と一体となったような感じだったから（3 名）
- ・前からやってみたかったから（2 名）
- ・スムーズに乗ることができたから
- ・海を守る活動の後に海を楽しむというコンセプトが良かったから
- ・スイスイと水上を進むのが気持ちよかったから
- ・無人島の砂浜と青のグラデーションがとてもきれいだったから
- ・無人島に行くという流れがとても魅力的だったから
- ・最後の戦争の話も印象深かったから

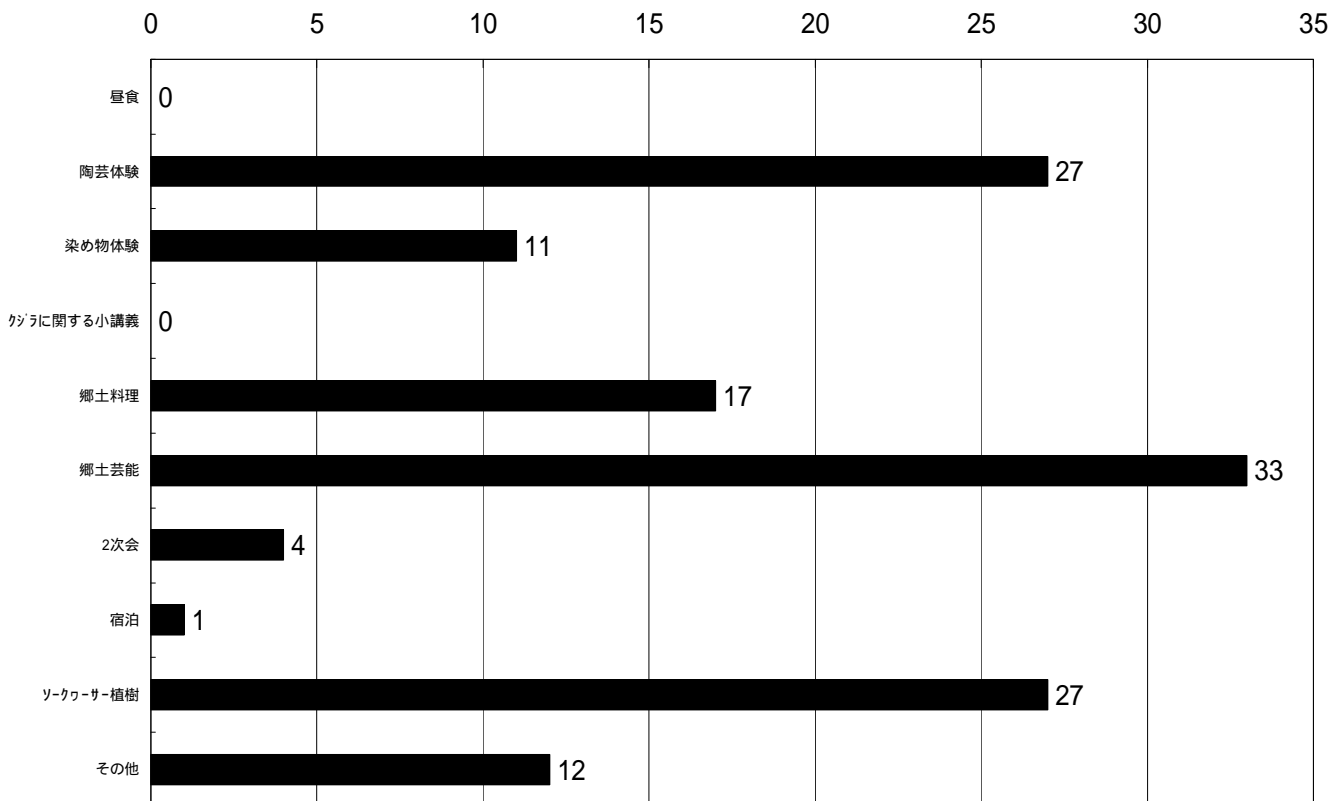
### ヨット体験（2 回実施）

- ・初めての体験だったから（3 名）
- ・スピード感があって楽しかったから
- ・厳しい環境の中、指導の方が親切に接してくれたから
- ・風や波が強い中、実行に踏み切っていただけたから
- ・みんなで他の人が乗るのを手伝いながら仲良く楽しめたから
- ・島の人同士の心が通じ合っていることが分かったから
- ・島やヨットを好きになってもらいたいという気持ちを感じたから

## ふれあいの森づくりツアー

昼食	-----	0 名
陶芸体験	-----	27 名
染め物体験	-----	11 名
クジラに関する小講義（1回実施）	-----	0 名
郷土料理（夕食）	-----	17 名
郷土芸能（交流会）	-----	33 名
2次会	-----	4 名
宿泊	-----	1 名
シークワサーの植樹	-----	27 名
その他	-----	12 名

『特に印象に残ったプログラム・ふれあいの森づくりツアー』グラフ



## 主な理由

### 陶芸体験

- ・初めての体験だったから（5名）
- ・指導が親切で分かりやすかったから（5名）
- ・シーサーを作れたから（4名）
- ・普段はなかなか体験できないから（3名）
- ・みんなで楽しく作れたから（3名）
- ・童心に帰れたから（3名）
- ・自分で作ったものが自分のものになる（形に残る）点が魅力的だから（3名）
- ・子どもたちも楽しそうに作れたから（2名）
- ・以前からやってみたかったから（2名）
- ・自分でいろいろと工夫やアレンジができるから（2名）
- ・想像よりも上手にできたから（2名）
- ・自分の好きなようにデザインできたから

### 染め物体験

- ・簡単に体験することができたから（4名）
- ・初めての体験だったから（4名）
- ・どんな出来栄なのか広げてみるまで分からないドキドキ感があったから（3名）
- ・染め物を習っていたことがあったから
- ・出来栄をすぐに見られるから
- ・自分で作るという経験で、作ることへの興味や楽しさを思い出したから
- ・都会に住むとどうしても忘れがちな自然の恵みや楽しさを実感することができたから
- ・染め物をする人の職人らしさを垣間見ることができたから
- ・参加者が染め物にとっても興味を示していたことが印象に残っているから
- ・世界に1つだけの作品を作ることができたから
- ・参加者それぞれの個性が出ていて楽しかったから

### シークワサーの植樹

- ・普段はできない体験だから（4名）
- ・地元の人とシークワサーの植え付けしている時に、島の生活に関する話が聞けたから（2名）
- ・何年後かに自分のシークワサーが実をつけると思うと嬉しいから（2名）
- ・地球にいいことをしている気持ちになれたから（2名）
- ・自作の看板とシークワサーを植えて、5年後に実をつけるという楽しみができたから
- ・自分で作った看板にも愛着が湧いたから
- ・看板作り シークワサー植えという流れが楽しかったから
- ・子どもも含めて参加者全員で楽しく行うことができたから

## 両ツアー共通

### 郷土料理

- ・とても美味しかったから（21名）
- ・お母さんたちの姿勢に温かい気持ちになれたから（6名）
- ・島のたくさんの人が携わっていて、歓迎してもらえているという感じがして嬉しかったから（3名）
- ・島の皆さんが楽しそうにしていたから（2名）
- ・地元の方々のそれぞれの顔が見えたから（2名）
- ・地元の食材を使っていて嬉しかったから（2名）
- ・品数がたくさんあったから
- ・メニューが工夫されていたから
- ・メニュー表や説明など、料理の内容がとても分かりやすかったから
- ・おふくろの味がしたから
- ・準備や片付けがテキパキしていてすごいと思ったから
- ・手作りデザートがとても美味しかったから
- ・バイキング方式だったから
- ・珍しい料理が多かったから
- ・沖縄に来て食べた中で1番感動したから
- ・島の料理についてお話を聞かせてくださったから
- ・盛り付けがきれいだったから
- ・村長まで来ていただいて、島のいろいろなお話が聞けたから
- ・炭で焼いた魚やアオリイカの刺身が絶品だったから
- ・地元の方が作る本格的な郷土料理を食べたのは初めてだったから
- ・作った方とたくさんお話ができたから
- ・すべて手作りだったから

### 郷土芸能

- ・出身や世代がバラバラな人たちが、1つになれたから（13名）
- ・ザ・マミーズが最高に楽しかったから（12名）
- ・地元の方と一緒にカチャーシーを踊れたから（10名）
- ・会場がものすごく盛り上がったから（6名）
- ・普段なかなか見る機会がない琉球舞踊を見られたから（5名）
- ・たくさんの人と交流できたから（5名）
- ・琉球舞踊が美しかったから（4名）
- ・自分たちを待っていてくれたという気持ちが伝わったから（3名）
- ・人の優しさに触れられた気がしたから（2名）
- ・島の文化に触れることができたから（2名）

- ・ スタッフの温かい対応に心を打たれたから（2名）
- ・ 三線名人の演奏が聞けただけでなく、直接お話できたから（2名）
- ・ 座間味のためにメンバーが懸命になっている姿に感動したから（2名）
- ・ 沖縄の歌が聞けたから
- ・ その土地でしか見られない芸能を見られたから
- ・ くじら太鼓がエイサーとはまた違って素晴らしかったから
- ・ 太鼓の演奏が心にかっこよくて響いたから
- ・ 自分でもエイサーを叩くことができたから
- ・ 人との良いつながりがある島だと実感したから
- ・ ツアーの参加者とゆっくり話げできたから
- ・ 普通の旅行では味わえない感動だったから
- ・ 琉球舞踊のレベルが非常に高かったから
- ・ 染め物を指導された島の方が踊っていて親しみやすかったから
- ・ 簡素的なライブではなくて本当に温かいと感じたから
- ・ 島の人の魅力に触れることができたから
- ・ 座間味の自然を守ることが、私たちの生活の一部として大切に思えるようになったから
- ・ 古典とモダンの両方を楽しめたから
- ・ 同じ若者として、地元の文化に誇りをもち形として表現できることを素直に羨ましく思えたから
- ・ 島をより身近に感じるいい機会になったから
- ・ 地元の方の手料理を食べながらの芸能感傷というスタイルが良かったから

## 2次会

- ・ 島の方とたくさんお話げできたから（3名）
- ・ 地元の方との交流が温かかったから（2名）
- ・ ツアーの参加者とたくさんお話げできたから（2名）
- ・ 武次郎氏（阿嘉島）に戦前から戦中・戦後に至る島の歴史や生活を教えていただいて勉強になったから（2名）
- ・ 地元の方と三線のセッションげできたから
- ・ 「いちゃりばちょーでー」を実感したから
- ・ 何度も席替えがあったから
- ・ 自分の世界が広がったから

## その他

- ・地元の方の温かいおもてなしの心に感動したから（3名）
- ・自然を大切にしながら、多くの人との触れあいもあったから
- ・ちびっ子が元気に走り回る姿が印象的だったから
- ・ホエールウォッチングが素晴らしい体験だったから（5名）
- ・ダイビング協会長や地元の方の自然への理解の深さを感じることができたから
- ・ウォーキングや原付バイクで周った座間味の風景が素晴らしかったから（2名）
- ・初めて座間味に上陸できたから
- ・クジラを見ながら、海や島の風景を小型船の船上から楽しめたから
- ・皆さんに親切にいただいたから（2名）
- ・事務局の段取りの良さに関心したから
- ・スタッフの方の人と人をつなぐ手助けがとても上手だったから
- ・JICAの方のおかげで異文化交流ができたから
- ・自分たちを「旅行者」ではなく「友人」として、「宿舎」ではなく「家」に招かれた気がしたから
- ・自分の心が豊かになったから

## ツアーにおける改善提案

### 昼食弁当について

- ・島ならではの弁当がいい。
- ・弁当は揚げ物が多く油っぽかった、もっと野菜や魚中心のほうが良かった。
- ・ゴミ拾いの後、その場で食事を取りたかった。冷たい弁当でもいいが、温かい汁でもあればなお良かった。
- ・お弁当がいまいち普通っぽい感じがした。サンニンの葉で包まれたものなど、どこにもないようなものを考案してみてもどうか。
- ・昼食のバラエティを増やして欲しい。土曜日と同じように見えた。
- ・普通のお弁当ではなく、地元の食堂でいただいたり、地元の食材にこだわった弁当などにして欲しい。
- ・2日目のお昼はどこか好きなレストラン又は民宿で食べたい。お弁当もいいが、初日と2日目の内容が似ていたのが残念。せっかくなら現地の味も食べてみたかった。

### サンゴの保全活動について

- ・シロレイシガイダマシの姿は予め参加者に実物を見せておいた方が良い。
- ・オニヒトデ駆除からシロレイシガイダマシ駆除に変更する可能性があるのなら、その時点で事前に連絡するべき。下調べをしたい。
- ・ダイビング終了後、集合写真及び駆除した貝を集めての現認会を行うべき。水中写真もあればベスト。
- ・海に2回潜れると良かった。1回目は説明と海中見物、2回目に駆除活動という流れ。
- ・海の保全をテーマにしているので、「ラムサール湿地」という言葉を入れるとなお良い。
- ・中世浮力の程度を事前にもう少し詳しく教えて欲しかった。

### ビーチクリーン活動について

- ・『楽しく』という理由でゴミの少ないビーチを選んだということだったが、もっと汚いところがあると聞いて残念に思った。本当のことを知りたいと思っていただけに、「汚いところにフタ」のような気がした。
- ・軍手に加えてゴミはさみを準備されてはどうか。逗子では小さなドラム缶に40～50本用意されており、毎月第1土曜日に実施している。

### シーカヤック体験について

- ・箱メガネが欲しかった。

### 陶芸体験について

- ・時間が足りなかった。（2名）
- ・染め物体験との時間の配分を再検討したほうが良い。（陶芸のほうが時間がかかる）

### 小講義について

- ・座間味の地理や歴史のレクチャーもあると良い。（2名）

### シークワサー植樹について

- ・前もって土地を耕し、土作りから始めるなど、準備段階からの取り組みがあったほうが良い。
- ・海ツアーに比べて、なぜ植樹なのかが曖昧だった。

### プログラム全般について

- ・夕陽が見たかった。（4名）
- ・小講義や交流会の会場が寒かった。（3名）
- ・外国の方が参加する際は、英語のパンフレットを用意するなどの配慮をすべき。（2名）
- ・オプションツアーのホエールウォッチングの料金を割引して欲しかった。（2名）
- ・高良家ツアーを定番メニューにするべき。
- ・今回オプションだったホエールウォッチングをメニューの1つに入れて欲しい。
- ・普通の島の観光を少ししたかった。
- ・海で泳ぐ時間が欲しかった。
- ・時間が限られているので、一旦宿に行ってから再集合という流れがもったいない。
- ・ビーチに行く時間を増やして欲しい。
- ・夜、ビーチでバーベキューやパフォーマンスがあれば良い。
- ・全体の初めに、座間味に関する短いドキュメンタリー映画を流してからオリエンテーションに入ると良い。
- ・1日目の時間配分で、昼食時間をもっと取るべき。
- ・1ツアー30名先着もしくは県外在住者優先制度を設けるべき。
- ・食事の際、他の席へ移動しづらかった。

### 宿泊について

- ・部屋の希望（バス/トイレ付き）を事前に聞いてもらいたかった。
- ・宿が離れていたのが車が必要となり、自由に出たり入ったりができずに不便だった。
- ・お風呂の時間が短く、翌朝早起きして入らなければいけなかった。もう少し融通をいただけたらと思った。
- ・朝食時間が宿によってまちまちだったので、統一されていると良い。
- ・于浜の体験滞在交流施設に参加者全員で泊まりたい。
- ・宿の方とプログラム内容の共有をしておくべき。

### 参加者同士の交流について

- ・ツアーの初めから名札を付けて活動すると話しかけやすい。（6名）
- ・ツアー後のことを考え、メールアドレスをまとめてリストにしてはどうか。
- ・行きフェリー内で、参加者同士が交流できる時間を作ると良い。
- ・もう少し人が少ないほうが密な関係を作れて楽しいかと思います。
- ・参加者数が多かったため、1人1人との交流がどうしても浅くなり残念。
- ・参加人数が20～30名程度であれば、参加者との交流がもっと深くなると思う。
- ・自炊やバーベキューなど、参加者で力を合わせて行う内容があっても良い。

### 村民との交流について

- ・料理やエイサーなど、島の人と一緒に 1 つのものをみんなでやるともっと触れ合えると思う。（2 名）
- ・島の生活としての漁業や農業との交流を加えるとさらに良い。
- ・地元の方とお話しようと思ったが、なかなかできなかった。夕食の際に隣に一緒に座ってほしい。
- ・陶芸や染め物、シークワサーの準備や片付けにいろいろな方が関わっていたが、一緒に取り組みたかった。ある部分では「観光客」、「参加者」という形で、少し壁らしきものを置かれてしまうことに寂しさを感じる。
- ・エコツアーとして、ゴミ拾いや看板作成など、役に立つ活動をできたらと思いました。
- ・夕食時にビーチクリーンを一緒にやった島の方とも交流を深めたかった。
- ・交流会では積極的に村民の方から声を掛けて欲しかった。村民の誰からも声を掛けられなかった。

### 自由時間について

- ・もう少し自由時間が欲しかった。島の散策などに行きたかった。（2 名）
- ・コマ切れではなく、まとまった自由時間が欲しい気もする。
- ・自由時間が 2 時間以上あると島内観光もできると思う。
- ・クイーン座間味を使って、自由時間を増やせるとなると良い。
- ・自由時間に選べる選択肢が欲しい。

### 雨天時の対応について

- ・雨天の場合のスケジュールを、最初から知らせておいても良い。
- ・雨天時の代替案を、前もって選べるとよかった。
- ・天候に合わせて、スケジュールの内容を変更あるいは入れ替えできれば良い。
- ・雨天時の選択肢をもっと増やして欲しい。

### 往復のフェリーについて

- ・フェリーよりも高速艇のほうが良い。（4 名）

### ツアーの日数について

- ・もう少し金額を高くしても、2 泊 3 日ならもっと楽しめる。（4 名）
- ・2 泊や 3 泊のツアーがあるといい。
- ・遠方から来るには 1 泊 2 日は短い。

### 運営事務局について

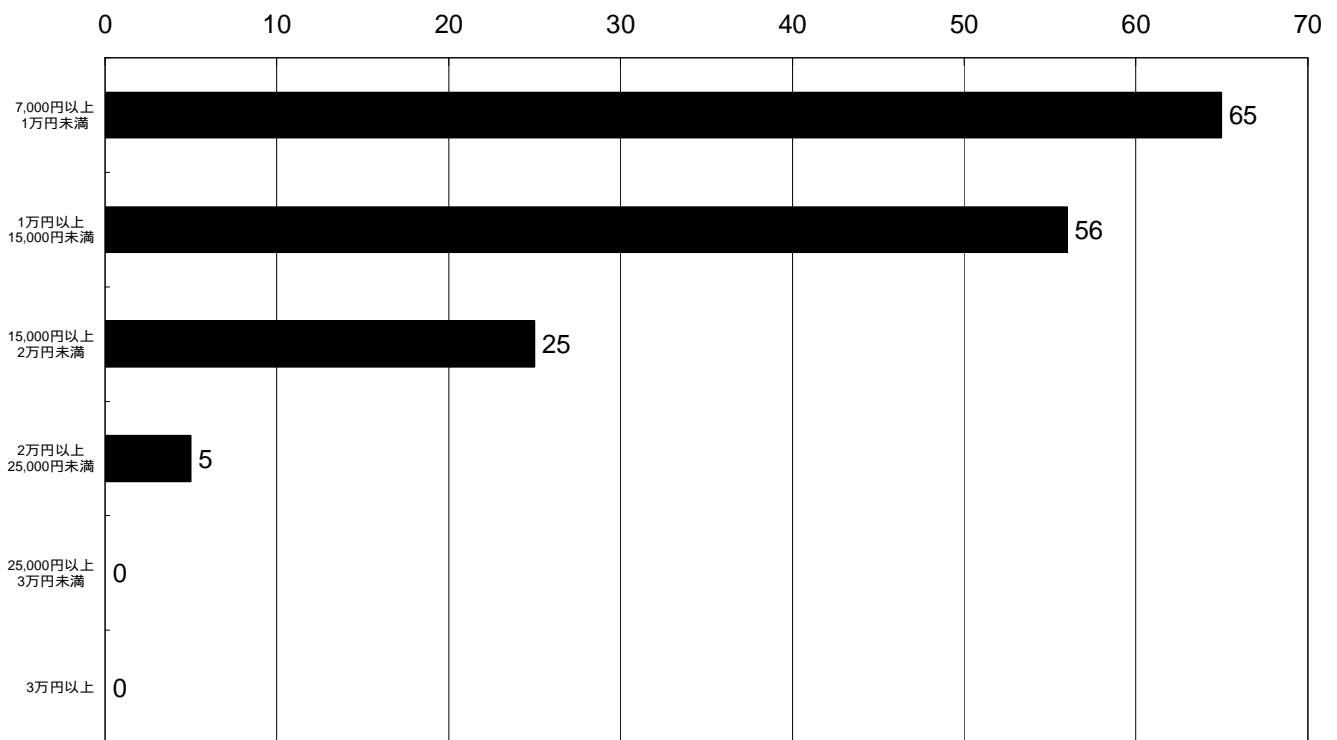
- ・当日配布されたスケジュール表が、事前の連絡（しおりの送付）と同じタイミングで欲しかった。（2 名）
- ・環境保全活動をやった証明書などを発行すれば、記念に残る。
- ・事前の連絡（しおりの送付）がもう数日早いとありがたい。
- ・帰りの船のスケジュール変更についてもっと早く知りたかった。（3 月 10 日～11 日のツアー）
- ・女性スタッフが 1 名いると良い。
- ・食事の際、奥から詰めて座らない方もいたので、「奥から詰めて座って」という一言が欲しい。

今回と同程度のツアー（1泊4食・体験料）の適正と思われる価格

7,000 円以上 1 万円未満	-----	65 名
1 万円以上 15,000 円未満	-----	56 名
15,000 円以上 2 万円未満	-----	25 名
2 万円以上 25,000 円未満	-----	5 名
25,000 円以上 3 万円未満	-----	0 名
3 万円以上	-----	0 名

複数回答があるため、アンケート回答数と本設問の回答総数は一致していない。

『今回と同程度のツアーの適正価格』グラフ



日頃旅行を計画する際に参考にする情報（複数回答可）

新聞 -----15 名

インターネット -----117 名

- |                           |                |
|---------------------------|----------------|
| ・地域の公式サイト（15名）            | ・地域住民のHP       |
| ・Google/Yahooなどの検索サイト（9名） | ・トラベルコちゃん      |
| ・mixi（8名）                 | ・楽天トラベル        |
| ・旅行会社（5名）                 | ・旅の窓口          |
| ・クチコミサイト（5名）              | ・フォートラベル       |
| ・ブログ（4名）                  | ・真南風ネット        |
| ・ANA（3名）                  | ・沖縄ツーリスト       |
| ・JAL（3名）                  | ・じゃらん          |
| ・HIS（2名）                  | ・AB ROAD       |
| ・沖縄観光コンベンションビューロー（2名）     | ・宿泊予約サイト       |
| ・美ら島物語（2名）                | ・目的地の安宿サイト     |
| ・ダイビング関連サイト（2名）           | ・フェリーなどの交通情報   |
| ・アウトドア関連サイト（2名）           | ・Lonely Planet |
|                           | ・各種体験記         |

雑誌・ガイドブック -----80 名

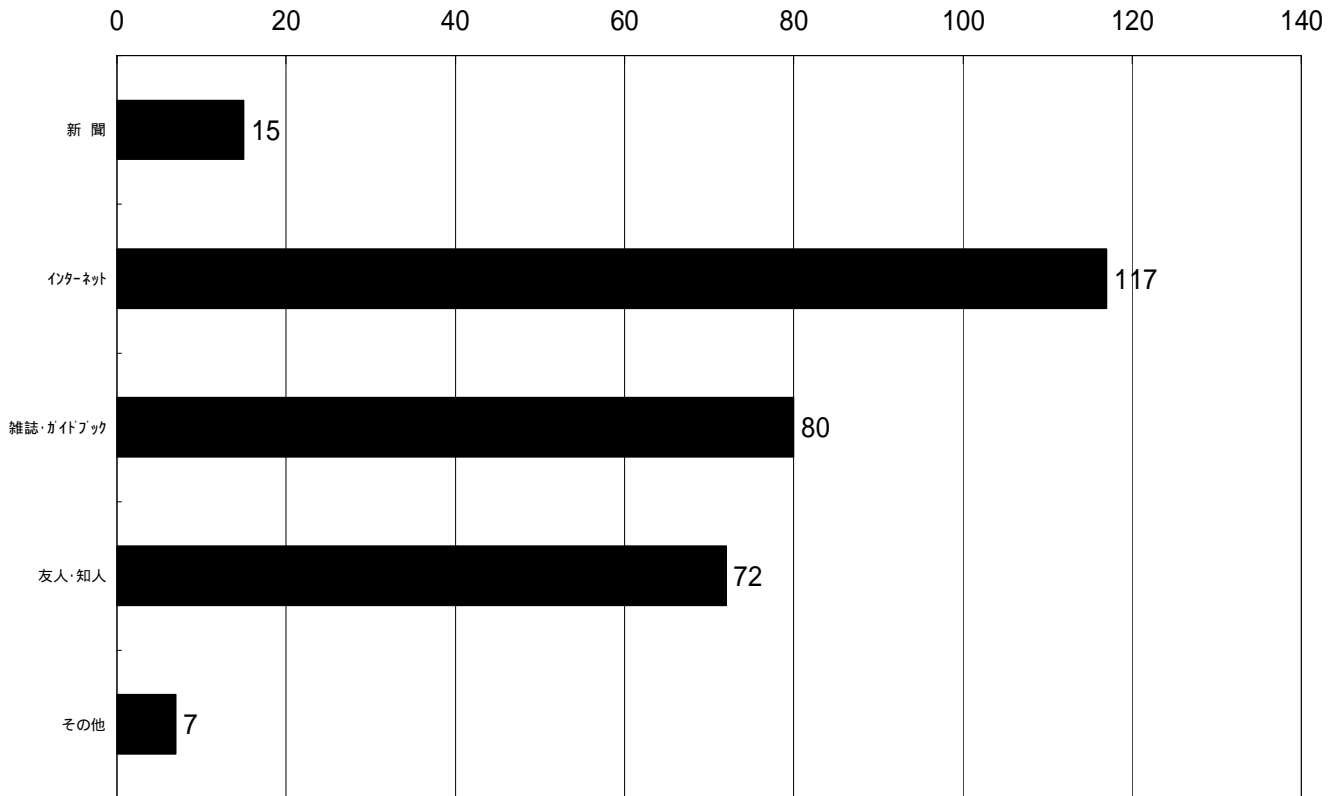
- |            |                 |
|------------|-----------------|
| ・るるぶ（19名）  | ・地球の歩き方（6名）     |
| ・まっぷる（7名）  | ・八重山ナビ          |
| ・離島情報（4名）  | ・じゃらん           |
| ・uruma（3名） | ・沖縄スタイル         |
| ・旅行雑誌（3名）  | ・マリンダイビング       |
| ・アウトドア雑誌   | ・沖縄系の雑誌         |
| ・体験記       | ・ロードマップ         |
|            | ・その土地で販売されているもの |

友人・知人 -----72 名

その他 -----7 名

- ・旅行会社に問い合わせる（4名）
- ・テレビ
- ・チラシ

『日頃の旅行情報入手先』グラフ



座間味に行きたくなる魅力（自由記述）

自然

- ・美しい海（64名）
- ・美しい自然（14名）
- ・サンゴ礁（8名）
- ・ビーチ（7名）
- ・無人島も含めた島々の風景（5名）
- ・空（4名）
- ・森（3名）
- ・山（2名）
- ・星空（2名）
- ・夕陽
- ・座間味でしか見られないもの
- ・たくさんの野生生物
- ・温暖な気候

### 村民との交流・おもてなし

- ・人の温かさ / 優しさ (21 名)
- ・島ぐるみでおもてなしをする演出 (2 名)
- ・村民との交流 / ふれあい (19 名)
- ・温かい歓迎
- ・村民と友だちになる (16 名)
- ・魅力的な人がいればまた会いに来る
- ・今回のような島の皆さんが迎え入れてくれる雰囲気

### 島のゆったり感

- ・田舎らしさ (8 名)
- ・観光地化されていない (7 名)
- ・のんびりとした雰囲気 (7 名)
- ・ゆったりとした時間 (4 名)

### 料理・宿泊

- ・美味しい料理 (13 名)
- ・帰りがたくなる宿
- ・採れたての美味しい海の幸
- ・安心できる宿
- ・ここでしか食べられない名物料理 (3 名)
- ・迎えてくれる雰囲気
- ・豆腐ケーキ
- ・良い宿泊施設
- ・島の特産を使った料理
- ・民宿ではなくて民泊
- ・健康に良い料理
- ・宿泊施設の情報 (サービス内容や食事の魅力をもっと PR)

### 体験プログラム

- ・ホエールウォッチング (6 名)
- ・伝統文化体験
- ・シーカヤック (3 名)
- ・星空観察
- ・オリジナルのお祭り (2 名)
- ・自分の足跡の残せる体験
- ・マリンスポーツ (2 名)
- ・慶良間古代遺跡巡り
- ・無人島キャンプ (2 名)
- ・歴史を感じること
- ・沖縄料理教室 (2 名)
- ・動物とのふれあい
- ・ダイビング (2 名)
- ・慶良間つつじの植樹
- ・シュノーケリング
- ・浜辺でバーベキュー
- ・ヨット
- ・夕食後のカチャーシー
- ・サイクリング
- ・地元の人しか知らないお薦めポイントめぐり
- ・シーサー作り
- ・昔から残る伝統行事を体験もしくは鑑賞
- ・異文化体験
- ・今回のような村おこし体験ツアー

## その他

- ・自然を大切にする村民の姿勢や意識
- ・沖縄戦最初の上陸地という歴史
- ・豆腐ケーキが土産店に置いてあること
- ・リピーターへの特典制度
- ・今回は村主催なので安心感があった
- ・フェリーの便数を増やして欲しい
- ・揺れない船
- ・都会や那覇にはないもの
- ・旺盛なサービス精神
- ・サービス内容や食事内容の発信
- ・行きたくてもなかなかいけない場所
- ・座間味の特産品
- ・今回同様、地元の人と交流して島に住んでいる人の魅力を伝え、お互いに仲良くなれば何度も来たくなる。
- ・関係者全ての横のつながり
- ・本島から 1~2 時間の楽しい船旅
- ・フェリーで 2 時間は近い感覚
- ・フェリー的那覇出港時間を 10 時半にして欲しい
- ・ダイビング費を 2 回 9,000 円にして欲しい
- ・ダイビングレンタル代を無料にして欲しい
- ・一緒に行った人と座間味で集まる
- ・観光客が増えると島全体の良さが失われる
- ・集客だけでなくしっかりと守っていくべき
- ・今のままでも十分に魅力的
- ・沖縄の他の観光地との差別化
- ・多少の不便さ（過剰なサービスは要らない）

こんなツアーがあったら参加したいと思う内容とその価格（自由記述）

80,000 円	エクストリームツアー（ギネス記録に挑戦するような限界ギリギリのツアー）
	超深度ダイビング
50,000 円	ホームステイ
30,000 円	自然体験や沖縄料理を作る地元をよく知るツアー
	地元の人しか知らないとおきツアー （ダイビングスポット・景色のきれいなスポット・子どもと遊ぶ・一緒にご飯を食べる）
	野宿キャンプ
	シーカヤックでキャンプ
	サバイバルツアー（2名）
	ダイビング三昧&キャンプツアー
	海人体験
島人とのつながりや思い出が作れる参加体験型のツアー	
20,000 円	無人島ツアー（シーカヤック・シュノーケリングなどマリンスポーツ全般）(2名)
	座間味の生き物や魚を勉強しながら実際に見に行くツアー
	ホエールウォッチング
	マンタポイントでのダイビング
	シュノーケリングやダイビングなど海を満喫するツアー
	釣り
	中高年限定のゆったりツアー（エコな釣り・陶芸・アート等）
18,000 円	シーカヤック・ヨット・ダイビングの全て
17,000 円	シュノーケリング三昧
15,000 円	沖縄料理体験（2名）
	オニヒトデやシロレイシガイダマシの駆除ツアー
	サンゴの観察シュノーケリング or ダイビングツアー
	海の自然保護活動&ダイビング
	海で遊べるツアー
	行った先で島の人に話を聞いたり自然の触れる島1周ツアー
	山歩き&星を見るツアー
	体験ダイビングとシュノーケリング
	釣り&山歩き
	水嵩散歩&キャンプ
	シュノーケリング&ビーチクリーン
今回と同様の森づくりツアー	
自然を満喫するツアー	

13,000 円	島の生活体験（家事・料理・方言・ホームステイ等）
12,000 円	座間味島 & 阿嘉島ツアー
	無人島キャンプ
10,000 円	無人島ツアー（2名）
	シーカヤックやヨットでアイランドホッピングツアー
	島巡りと沖縄家庭料理を食べるツアー
	サンゴの植え付けツアー
	農林漁業体験
	無人島を回ってビーチクリーンを行うツアー
	無人島でエコなビーチパーティー & 野宿（星空観察・シーカヤック・シュノーケリング）
	美しい夕陽と星空の体験ツアー
	トロリングツアー
	海での遊び
	昆虫獲り
	泳いで無人島に渡る
	シーカヤックやヨットで秘密のビーチに上陸・シュノーケルツアー
	座間味を歩こうツアー（ガイド付きで島を歩き、海でシュノーケリングをしてランチ）
	島の暮らしを知るツアー
	ビーチコーミング
	みんなで歌えるナツメロ大歌声ツアー
	自分で植えたシークワサーの収穫
トワイライトキャンプ（朝まで飲んで食べて語り明かす）	
海にいる生物の勉強会 & ダイビングもしくはシュノーケリング	
8,000 円	ガイドブックには掲載されていないスポットへ行くツアー
	星空観察
7,000 円	ナイトホエールウォッチング
	サンゴのクラフト作り（ランプなど）
	海人とシュのケーリングツアー（獲った魚を食べる）
	植物採集 & 山についての勉強会 & 木などを使ったモノづくりツアー
	自転車ツアー
	ビーチクリーン & ヨット & シーカヤック
	無人島ツアー
今回のような体験活動 & 島の皆さんとの交流	

5,000 円	シュノーケリング（2名）
	キャンプ（バーベキュー・シュノーケリング）（2名）
	サバニクルーズで漁をし、船上で刺身やビールを楽しむ
	ウォーキング
	グルクンの追い込み漁
	ガザミ獲り
	シーカヤック
	飛行機による遊覧ツアー
	ホエールウォッチング
	星空カヌー
	座間味の穴場ツアー
3,000 円	モズク獲り
	素潜り体験
	沖縄料理体験
	シーカヤック半日体験
	星空観察
2,500 円	島一周展望台めぐり（夜間）
2,000 円	島一周展望台めぐり（昼間）
1,000 円	アイランドホッピング
価格表記 なし	<p>アウトドアスポーツ系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイビング（4名）</li> <li>・自転車（3名）</li> <li>・サーフィン（2名）</li> <li>・トレッキング</li> <li>・サバイバルツアー</li> <li>・ウォーキング</li> <li>・自然を生かしたマラソン／水泳大会</li> <li>・山の中を走るトレイルラン</li> <li>・アドベンチャーレース</li> <li>・ヨットやダイビングと山や森との触れ合い</li> </ul> <p>生き物との触れあい系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケラマジカとの触れあい（2名）</li> <li>・サンゴの産卵を見る</li> <li>・サンゴの観察会</li> <li>・ウミガメとの触れあい</li> <li>・イルカウォッチング</li> </ul>

<p>自然体験系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・フィッシング（3名）</li><li>・カヤックによる島巡り（2名）</li><li>・キャンプ体験</li><li>・シュノーケリング</li><li>・船で島を一周</li><li>・カヤックやヨットで無人島に上陸</li><li>・クルーザーで夕陽を見る</li><li>・展望台巡り</li><li>・ビーチクリーンとウミガメやサンゴの調査がセットになったツアー</li><li>・山の探険</li><li>・流木アート</li><li>・ナイトハイク</li><li>・スターウォッチング</li></ul> <p>料理体験系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・沖縄料理体験（6名）</li><li>・座間味の特産品による料理体験</li><li>・無人島で料理</li><li>・魚のさばき方講習</li><li>・釣った魚を料理</li></ul> <p>文化体験・交流体験系</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・島の皆さんとの交流（4名）</li><li>・今回のようなツアー（3名）</li><li>・みんなで踊る（2名）</li><li>・琉球舞踊体験</li><li>・ホームステイ</li><li>・1週間の長期滞在</li><li>・船の操縦体験</li><li>・サバニ体験</li><li>・島の歴史を巡る</li><li>・大エイサー大会</li><li>・サトウキビ収穫体験</li><li>・シークワサー採り放題</li><li>・美ら海づくり／ふれあいの森づくりツアーの同窓会</li><li>・みんなで歌を歌う</li><li>・座間味の漁師と一緒に漁業体験</li><li>・お花いっぱいのお祭り</li></ul>
--

## 自分が座間味の「観光大臣」になったら取り組んで見たい観光客誘致政策（自由記述）

### 広報に関する取り組み

- ・島の素晴らしさをラジオやテレビ、インターネット、ポスター等あらゆるメディアで情報発信し、プロモーション活動を行い、ファンを増やす。（7名）
- ・座間味の人の温かさ、自然や海的美しさや綺麗さをアピールする。（5名）
- ・他の離島と違うところ、この島でしかできない体験を積極的にアピールする。（5名）
- ・TVドラマや映画の撮影やロケ地に使ってもらおう。（4名）
- ・広報に力を入れる。（3名）
- ・都市部において、パンフレットを置いたり、座間味グッズを販売したり、座間味情報を発信したりするショップを作るなどをしてアピールする。（3名）
- ・那覇から50分という近さ、本島から少し船に乗るだけで美しい海が体験できることをアピールする。（3名）
- ・ターゲットを明確にしたプロモーションを行なう。（2名）
- ・ダイビング、ビーチ以外に釣りなど他の分野でも観光客を呼ぶ。（2名）
- ・口コミで全国に広めてもらう。（2名）
- ・キクさんの料理やザ・マミーズCDデビューなど島の特徴をアピールする。（2名）
- ・自然を守っていることをPRする。（2名）
- ・韓国、台湾、中国からのインバウンドを旅行社にPRする。（2名）
- ・いろいろな土地に足を運んでPRする。（2名）
- ・今回のツアーの具体的な内容を様々な媒体を通じて発表する。（2名）
- ・トライアスロンなどを開催し、美しい自然を生かしたアウトドアスポーツの盛んな島というイメージを広げる。
- ・県外の方で自然にあまり触れたことのない人を集めて、思いっきり海や山の中を見て回れるようなPRをする。
- ・観光チャンネルを作り、県内の人でも見られるようにする。
- ・島のおじいや生き物、自然のドキュメンタリーを撮って、たくさんの人に見てもらう。
- ・旅行社に村の現状、村人の思いをわかってもらおうなど、広報・交流に努める。
- ・すでにブランドは確立しているので地道にPRする。
- ・小中学校の総合学習に食い込ませる。
- ・美ら海ツアー／ふれあいの森づくりツアーに参加したメンバーでサポータークラブを作り、連絡網を作って定期的にメールマガジン等を送付する。
- ・サポーターの登録で会員を増やす。案内をメールするなどファンの輪を広げる。一過性はだめ。
- ・アウトドア派を島に呼び、自然に優しい人達のファンを増やすことで、友人や家族と一緒に来ることを狙う。
- ・沖縄本島向けにラジオ番組の公開放送で人と島の魅力を伝え、座間味を愛する芸能人にも協力してもらう。
- ・2ヶ月に1回ぐらい定期的に今回と同じようなツアーを企画する。
- ・島のヘカッブルで行くと幸せになるなどの言い伝えをつくる。
- ・各季節に祭りを作る。
- ・ロックラクビーやサーフボールなどの座間味発の海で遊ぶスポーツを作る。
- ・県内の大学に営業をする。

## ネットワーク作りに関する取り組み

- ・全国の離島の人達との交流や意見交換する。
- ・沖縄本島と協力した島旅めぐりをする。
- ・他の観光地との連携で座間味・阿嘉・慶留間を知ってもらう。

## ツアー内容に関する取り組み

- ・ダイビングに加え、自然のことや歴史などを含めて、ターゲットとする年齢や興味対象に応じたツアー等の企画をし、年間事業計画を決め毎年継続して実施する。（14名）

### 【例】

- ・初心者向けのダイビングレッスン、サーフィンレッスン
  - ・リピーターの人のためのツアー
  - ・小学校低学年の子どものいる家族を多く呼べるようにする。低学年だと親と一緒に旅行が出来る。自然に興味を持ちやすいため。村人が思い出作りに参加する。
  - ・これから中年の旅行社を取り込むため、写真コンクール、絵画コンクールを企画、座間味の写真や絵を書いてもらう。
  - ・暇と金がある老人にスポットを当てて、滞在型・体験型の企画をする。
  - ・家族で来て親がダイビングをしている間のために、子ども向けのプログラムを作る。
  - ・春夏秋冬と座間味の気候と自然を活かし、若い世代や中高年等と気軽に参加できる企画をする。
  - ・本土の子どもたちが来島して『1日島っ子体験』をする。夜は大人と子どもで大交流会。
- 
- ・島の人々と仲良くなって、島の生活を疑似体験したり、伝統的な家に宿泊する。（7名）
  - ・地元の方に教えていただく、島の食材を用いた料理教室（3名）
  - ・カヤックレース、トライアスロン、サバニレース、ウォーキング、マラソン、遠泳などの大会開催（3名）
  - ・夜のイベントを作る（クラブやディスコ）。（2名）
  - ・座間味からも沖縄本島もしくは本土に行くツアーをつくり、相互に行き来するようにする。
  - ・ヨットまたはクルーズ船で1泊または2泊でダイビングをしながら、いくつかの島をまわる。
  - ・冬でも集客できるツアー（星を見る／島内観光／慶留間に行くツアーなど）
  - ・1日目に海の映像&ダイビング講習を実施し、2日目に映像で見たような魚や光景を実際に見てもらう。
  - ・ビーチフェスティバル。照明で飾られた場所でバーベキューやパフォーマンスなどの出し物をする。
  - ・三線無料教室などいろんな体験をできるようにする。（できれば海岸で）
  - ・リサイクルなど地球環境にとっても配慮した島であることを前提に、そのために島が行なっていることを知ってもらうツアー
  - ・ビーチ保全活動とアクティビティ。綺麗にした海で遊ぶ、そして来たとき以上に綺麗にして帰るといったサイクルを島人と協力しながら作る。
  - ・星空観察に関するプログラム
  - ・くじらをテーマにしたプログラム
  - ・自然体験型のツアー
  - ・体験ダイビングツアー

- ・ スポンサーを集めてサバニレース大会を実施（民間からも協力を得ることが大切）
- ・ バナナボート、パラセイリング、水上スキー
- ・ 離島の静けさや温かい雰囲気大切にしたものを作り出す。
- ・ スロートリップと題した、キャンプやヨガなどのツアー
- ・ 夏休みの宿題のお助けツアー
- ・ 第 2 のふるさと作りツアー
- ・ 各島やスポットを巡るとスタンプが押してもらえるようなスタンプラリー
- ・ 座間味＝ダイビングというイメージを利用して世界的にダイビング客を呼べるようにする。
- ・ サンゴの田んぼ作り
- ・ エステに関する企画
- ・ 簡単な方言を教わるツアー
- ・ シークワサー狩り
- ・ 座間味の植物を勉強するツアー
- ・ 自然を主とした地域全体での観光地という考えで山、海、花それぞれの方向でのツアー
- ・ 外国人の人達も気軽に来られるようにする
- ・ 県外の人達が参加するお祭りでエイサー体験（合宿から本番まで）
- ・ 参加者が花を文字や絵にして、記念に残せるようにする。
- ・ 座間味の年中行事を公開する。
- ・ 名物おじい、おばあによるお話会
- ・ いろいろな果樹のオーナーになるように植え付けをしてもらう。

#### 島内の施設・文化に関する取り組み

- ・ 島全体に花（シークワサー・ひまわりなど）をいっぱい植えて「花の座間味」を作り、祭りやツアーに活かす。  
（5名）
- ・ 建物を建てて人を呼び込むのではなく、島の歴史や自然や文化を守り、観光に来る方々にそれを理解してもらえ  
る様な企画作り。（3名）
- ・ 自然を壊さずに島の交通網を整備する。（2名）
- ・ 島の昔の家屋や自然景観をあまり壊さない形の街並保全。（2名）
- ・ 総合的なレジャー施設。ホテルやマリンスポーツをまとめてできるところを作る。（2名）
- ・ 島の景観をなるべく壊さないでいかに非日常でのんびり過ごせるか。琉球石灰岩などで作った露天風呂。
- ・ 圧倒的に船で来島する人が多いので、港の施設の充実をする。
- ・ 島人とふれあえる場所や情報などの充実をする。
- ・ 1ヶ所にたくさんの観光客が泊まれる手頃で清潔な宿泊施設を各有人島に作る。
- ・ 宿泊所の整備。館内にコーヒー、アルコール、軽食などを利用できるようにする。
- ・ ほっとする座間味のいいところを失わないように。
- ・ 水周りを清潔にする。
- ・ 宿泊施設の充実・改善（客層を広げるため、島人による温かい民宿タイプとゆっくり滞在できるリゾートタイプ  
の 2 種類があってもいい）

- ・サンゴの博物館、水族館の建設
- ・自然を壊さずにトイレの設置などの海岸の整備
- ・レンタルバイク、レンタルサイクル
- ・自転車、ビーチ、ダイビングレンタルなど、荷物が少なくても遊べる島にする。
- ・多くの人が必要で楽しいと思う施設・イベントを作る。
- ・客を呼ぶため価格を下げるのではなく、島に人がたくさん来ても受け入れられる体制作り。

#### 環境保全の推進に関する取り組み

- ・ビーチクリーンや島内の清掃など、技術や能力に関係なく皆が出来る活動（3名）
- ・環境を考える島にし、島の自然・文化を守る。（2名）
- ・海からできる限り人工的なものを少なくする。美観を損ねるものは作らない。（2名）
- ・ひたすら便利にしない。工事をしない。（2名）
- ・小さな島だからこそ今ある自然を守っていけるような体制を作る。
- ・安全面は大切であるがなによりも自然が一番。
- ・サンゴ保護。自然を残しながらトイレなどを綺麗にする（立派な建物ではなく、最低限の設備でいい）。
- ・みんなで自然を守ってくださいと声をあげて実行していく。島の自然にプラスの付加価値をつける。
- ・楽しく明るく厳しいルールを作る。
- ・大資本の企業は呼ばない。
- ・オニヒトデ等の駆除をやめ、まさに自然とそのままに、自然のままに生きることを選んだ島とする。無責任かもしれないが、そういう姿勢や精神は正しいと思うし、日本や世界から注目されると思う。

#### 料金に関する取り組み

- ・フェリー代を払うといろいろな割引制度が受けられるようにする。
- ・本島からだと泊港に車を停めておくため、駐車料金割引制度があるとよい。
- ・月に1~2度那覇からの船代を無料にし、週に1度は半額にする。
- ・近くの離島と協力し、島を複数行けば、割引になるなどの制度
- ・リピーターへの食費無料制度や、初めての人へのフェリー片道無料
- ・運賃や宿泊料金を格安にする。
- ・航空会社の年間の割引スケジュールに合わせた計画づくり
- ・低価格で初心者ダイビング等を体験してもらい、リピーターになってもらえるようにする。
- ・船代、宿泊を込めたパックスツアーの販売
- ・団塊の世代を狙い、宿や食事のレベルを上げて料金も上げる。
- ・時間、価格は一定にして、ガイドの質だけで争ってもらい、外国人も分かりやすい体系にする。

#### アクセスに関する取り組み

- ・泊だけでなく本部からの船を出す。高速船を増やす。フェリーの便数を増やす。（4名）
- ・日帰りをしやすいように座間味から夜遅く出る船を増やす。（2名）
- ・島と島をつなぐ連絡船を運行する。

- ・那覇空港近くに棧橋を作り、そこから船を発着させる。
- ・慶良間諸島間の移動を容易にする。
- ・フェリーの時間と飛行機の時間を連動させる。

#### 土産物や特産品等に関する取り組み

- ・地元の昔ながらのものを残しながら、座間味村の限定のお土産品、特産品づくりに力を入れる。（5名）
- ・村民による手作りの土産物をつくる。（2名）
- ・土産物よりも、こちらでないと食べられないものを売る。
- ・「座間味＝クジラの島」をもっとアピールできるようクジラ関連の特産物・民芸品を作り、他の離島との差別化を明確にする。

#### 受け入れ側の意識向上に関する取り組み

- ・島全体で歓迎して受け入れている雰囲気作り。（3名）
- ・ホスピタリティに力を入れ、旅行者に温かく接し、リピーターになっていただけるよう、顧客満足度を常に高めていく。（2名）
- ・行政主導で島一体となって観光スタッフとなれる意識の改革（例：ベネッセアートサイト直島）
- ・みんなで協力してご飯を作る。
- ・お見送りを盛大に行う。
- ・スタッフが島で迎えるだけでなく泊港から一緒に案内する。
- ・民宿ではなくホームステイ等、長く付き合える少人数に的を絞る。
- ・一部の人たちだけでなく、島全体で盛り上げる雰囲気づくり
- ・地元の人がガイドのように一緒に島をまわる。
- ・島の人または子どもが挨拶をする。

#### 今回の企画継続に関する取り組み

- ・今回のようなツアーを年中実施する。（3名）
- ・今の活動を継続する。周りの人にも今回の体験を教えたいと思う。
- ・今回のようなエコツアーは関心が高まっていることもあっていいと思う。

#### 予約システムに関する取り組み

- ・ダイビングショップごとに客をとるのではなく、インターネット等で一元的に予約できるようにする。
- ・宿の内容などの情報を得やすくして予約管理も全体としてシステム化する。

#### 観光抑制に関する取り組み

- ・これ以上多く観光客を多く呼ばないほうがよいのではないか。ゴミ問題、水問題など、負荷の部分も発生すると思う。（2名）

#### 4 調査結果の考察（昨年度との比較をもとに）

##### ツアーを知ったきっかけ

昨年度と同様、「友人・知人」が最も多い回答数となった。座間味村は豊かな自然環境や温かい人柄のおかげで顧客満足度やリピーター率が高く、クチコミが生まれやすい環境にあると言える。今後は、クチコミをマーケティング戦略の一環として研究・実践している企業と同じように、いかにクチコミを発生させるかという、「待つクチコミ」ではなく「作るクチコミ」に向けた仕掛けが必要である。その意味で、きっかけの第 2 位となっている「座間味村ホームページ」（昨年と同順位）が果たすべき役割は大きいと考える。現時点でも、クジラをはじめとする旬の自然の写真を更新するなど、定期的に訪れたいくなるようなページ作りがされており、評価は高い。今後は見た人が友人・知人に教えたくなる新たな工夫が求められる。

特筆すべきは昨年わずかに 4 名しか回答のなかった「その他のホームページ」が今年は 15 名とおよそ 4 倍になっている点である。そのうちの半数近くがソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の代表格である mixi（ミクシィ）を挙げており、インターネットの世界でも友人・知人による横のつながりが消費者の行動に直結していることを伺わせる。

##### ツアーに参加しようと思った動機

昨年度は「料金が安いから」が第 1 位の回答数を得たが、今年度は「ツアーの趣旨に賛同するから」がトップとなった。“島の自然を守るボランティア活動と島人との交流”をキャッチコピーのように様々な広報媒体で紹介したことや、『沖縄スタイル Vol 17』で慶良間海域保全会議が取り組むサンゴの保全活動に関する記事と並んで広告を掲載するなど、楽しいという雰囲気に終始させない広報が功を奏したと考えられる。

また、この美ら海づくり・ふれあいの森づくり事業が 2 年目を迎え、ホームページや昨年度の参加者などからツアーの内容を聞いた方が、その趣旨に興味を持ち参加したケースが多いことも理由のひとつとして挙げられる。

##### 今回と同程度のツアー内容の適正価格

この設問に対しては、「7,000 円以上 1 万円未満」と回答した方が 65 人と最も多かった。座間味村の場合、多くの民宿が 1 泊 2 食付き料金を 5,000 円～7,000 円に設定しており、今回と同程度の体験プログラムを 3,000 円～5,000 円未満で実施することはかなり厳しいと判断できることから、1 万円未満はあまり現実的ではないと思われる。

他の回答を見ると、「1 万円以上 15,000 円未満」が 56 人いる一方、15,000 円以上は総計でも 30 人しかいない。従って、「1 万円以上 15,000 円未満」が今後の参考にすべき基準になると考えられる。持続可能な仕組みを構築するためには、人件費や消耗品費も参加費から補うべきであり、体験プログラムの内容の充実とコストのバランスを検討する必要がある。

## 日頃旅行を計画する際に参考にする情報

事前の予想通り、インターネットが断トツのトップとなった。ここでも、従来の情報発信型のホームページだけではなく、mixi に代表されるソーシャル・ネットワーキング・サービス、さらには個々人のブログといった、新世代の媒体が新たに登場している。で指摘したように、これらインターネット世界での横のつながりは、本設問で第 3 位の回答数を得ている「友人・知人」に直結していることから、現在はインターネットが最も訴求効果の高い情報発信源であると断言できる。従って今後は、検索連動型広告のようなインターネット上での広告手法を取り入れることも検討に値する。

一方で、「雑誌・ガイドブック」が第 2 位の回答数を得ており、言わばアナログの代表格も依然として重要な情報源であることが分かる。本事業でも複数の雑誌・ガイドブックに広告・記事を掲載していただいたが、インターネットだけに頼るのではなく、こうした従来の手法も忘れてはいけない。例えば、雑誌やガイドブックの読者をインターネットのサイトに誘導し、さらに具体的な情報を収集できる仕組みを構築することで、相乗効果による顧客獲得を目指すことも可能となる。

## こんなツアーがあったら参加したいと思う内容とその価格

自由記述での回答を求めたため、多種多様な意見が寄せられたが、中でも、自然体験系と文化体験・交流系を求める割合が高い結果となった。これは昨年度の「今後あったらいいと思われるツアー」の回答と同じ傾向であり、内容も重なるものが多かった。体験滞在交流促進事業は、沖縄の特性を活かした滞在型・参加型の観光を促進し、地域の活性化を図ることが目的であるが、ここで謳われている体験型・参加型の内容が、今まさに消費者から求められていると言える。参加者からの提案をどれか 1 つでも具体化し実践に移すことが、これからの座間味村に求められている。

価格帯としては、と同じく、1 万円から 15,000 円のイメージを持つ参加者が圧倒的に多い。ただし、このイメージには宿泊費も含まれていると推測できることから、ここで提案されている体験メニュー + 宿泊（1 泊 2 食）をこの価格帯に設定することが必要であると言えよう。

## 参加者が考える観光客誘致戦略

広報に関する提案とツアー内容に関する提案が多かった。広報に関する提案では、参加者はマスコミやポスター等あらゆる媒体での積極的なプロモーションが必要と感じている。テレビや映画でのロケーション撮影もその 1 つとして挙がっているが、こうした広報手法は専門的な知識が必要になることから、村役場や村民が独自に動いてもなかなか実現は難しい。今後は、例えば沖縄観光コンベンションビューロー内に存在しているフィルム・コミッションとの連携<sup>2</sup>も選択肢の 1 つである。

ツアー内容に関する提案としては、体験滞在交流型の内容が多かった一方で、団塊の世代や子どもを抱える家族など、対象を限定したツアーへの希望も多かった。ホエールウォッチングやダイビングといった既存のメニューも含め、特定の対象だけに絞った内容を検討し、限定された満足感や充足感を高めていく、いわゆる「ニッチ・マーケティング」の考え方も重要なポイントになる。

<sup>2</sup> 沖縄フィルムオフィスにおける座間味村のロケ地データは、2007 年 3 月末時点でわずかに 6 ヲ所しか登録されていない。